

## 式 辞

本日、入学式を迎えられました新入生の皆さん、大学院へ進学された皆さん、はるばる中国や東南アジアからの留学生の皆さん、おめでとうございます。未だに収束しない新型コロナウイルス感染拡大により、残念ながら、分散しての寂しい入学式になってしまいました。長崎総合科学大学の教職員一同、心から歓迎いたします。また、今日まで皆さん方を物心両面から支え、励まし、見守り続けてこられたご家族の皆様のお喜びはいかばかりかと思えます。心からお祝い申し上げます。

皆さん、よくぞ長崎総合科学大学に入学されました。本学は、八十年の歴史を誇る理工系の小さな規模の私立大学です。皆さん一人ひとりを大事にし、皆さん一人ひとりに寄り添い、丁寧できめ細かい指導を行い、人間的にも信頼される立派な人材に育て上げて、社会に送り出すことを約束したいと思います。本学は、今回のコロナ禍の中でも、学びの機会と質を保障するために、休校することもなく、対面授業を主体としつつ、ICTをも活用した授業を続けてきて、先日の卒業式で学部一六九名、大学院十三名の卒業生を社会に送り出すことができました。

長崎総合科学大学の歴史を振り返ってみますと、起源は、一九四三年（昭和十八年）の、川南高等造船学校の長崎港外・香焼島での開校までさかのぼります。戦後、設置母体の川南造船の倒産等により一時は廃校の危機を迎えたことがあります。その危機的状況のとき、学生たち自身が自主的に立ち上がって復興運動を起し、その学生たちと教職員の一体となった努力によって、見事に復興を果たしました。

その後、一九六五年（昭和四十年）に、長崎造船大学へと県内では初めての私立大学として大学に昇格しました。さらに、一九七八年（昭和五十三年）に長崎総合科学大学と改称するとともに、多くの改革を重ねて、現在は、工学部と総合情報学部の二学部二学科八コース、大学院工学研究科、並びに別科日本語研修課程を設置する大学へと発展しました。

このように、廃校の危機に直面した時、皆さん方の先輩たち自らが、自主的に立ち上がって本学を復興させてくれたことで、本学の今があります。本学は、皆さんたち学生が主役を担う、他の大学にない素晴らしい歴史と伝統を持った大学です。このことを認識し、誇りに思ってください。

「伝統とは、革新の連続の結果なり」という言葉があります。皆さん方学生と私たち教職員が力をあわせて、更なる大学の改革を進め、新しい長崎総合科学大学の伝統、歴史を築きあげていきましょう。

本学には、教育の根幹をなす「建学の精神」と「大学の理念」が掲げられています。「建学の精神」は、「自律自彊（じりつじきょう）」「実学実践（じつがくじっせん）」「創意創新（そういそうしん）」「宇内和親（うだいわしん）」の四つの四字成語にまとめられています。「自律自彊」とは、自ら努力し、励んで、自分自身を高め、自己を確立すること、「実学実践」とは、社会の役に立つ技術を開発・実行できる実践的な人材、「創意創新」とは、常に先進的で独自の技術を開発して、社会の発展に寄与する新しいものを作り出す開発力を有する人材、「宇内和親」とは、常に物事を世界的視野で考え、人類の平和を育む人材になることです。

「大学の理念」は、「人類愛の存するところ技術への愛もまた存する」と掲げられています。これは、古代ギリシャの先哲ヒポクラテスの言葉です。

その意味は、科学技術は、人類の幸福と平和の発展のために役立てるべきであること。日々の学びの中で、これらの精神を思い起こすことで、学びの羅針盤としてください。

ところで、社会は今、大きく変わろうとしています。近年、人、モノ、情報が世界を駆け巡るグローバル化やデジタル・トランスフォーメーションが急速に進んでいます。この社会の変化は、全体としては、人々の生活を便利で豊かにする一方、格差の広がりや社会の分断を生み、変化についていけない人を置き去りにしています。その結果として、自国第一主義やポピュリズムの高まり、超大国による覇権争いなど、国内外の情勢が先行き不透明な状態になっています。特に、このほど発生したロシアのウクライナ侵攻は、これまで経験したことのない世界的危機です。これらの動きの根底には、自己中心的な考え方が世界的流れとしてあるように思われて仕方ありません。さらに、未だに終息の気配がみられない今般の新型コロナウイルス感染の世界的広がりは、このような社会の変化をますます加速しています。New Normalと表現され、人と人の接触を極力少なくすることが求められる変容した生活様式のなかで、どのように行動していくのか、大きな課題がつきつけられています。

この課題に対処するキーワードは、「思いやりの心」だと思います。相手を尊重し、相手の立場に立ってモノを考え、行動することが大事だと思います。大学での教育は、「何を教えたか」から「何を学び、身につけることができただか」という学修者本位の教育の実現が求められています。したがって、あなたたち学生も、「何を学び、何ができるようにになりたいか」しっかり考え、確かな目標を定めてください。目標が定まれば、やるべきことが明確になります。また、大学で学ぶことは、単に新しい知識や技術ばかりではありません。幅広く多くのことを学んで教養を身に付け、人間形成に努めることも大切です。

この四月から、成年年齢が引き下げられ、法律上も、大人として行動するこ

とが求められます。基本的には、自分の考えで行動し、その行動に責任を持つ  
ということですが。責任を持つ限り自由であり、主体的、自主的に、勉強、課外  
活動、ボランティア活動等に精いっぱい行動してください。

また、それらの大学での行動の中で、志を同じにする友人を作ってください。  
学生時代に切磋琢磨しあった友人は、生涯の友になります。

皆さんの前途を祝福し、有意義で充実した楽しい大学生活を送られんことを  
祈念して、式辞といたします。

令和四年四月四日

長崎総合科学大学

学長 池上 国広